THE SECRET GARDEN
ー嘘の中にある真実ー

想像力の翼を味方につけて　海渡雄一（トータルアドバイザー／弁護士）

これは秘密保護法違反事件とその裁判を描いたミュージカルです。最初の舞台は原子力発電所です。私もトータルアドバイザーとして、スタッフの皆さんとシナリオ作成の討論に加えていただきました。私は、秘密保護法は戦争の準備のために政府が国民をだまし、そのウソを暴こうとするジャーナリストや市民を葬り去る法律だと説明してきました。ネタバレになるといけないので、詳しいことは記せませんが、確実に近未来に起きそうなケースが描かれ、最後にはアッと驚くような結末が用意されています。

秘密保護法を克服し、私たちがこのような未来を見なくてすむようにするためには、この法律がどのように適用され、事件を裁く法廷がどのようなものとなるのか、それが現実のものとなる前に、想像し、表現し、このような未来に「ノー」という意思表示をする必要があります。

このミュージカルを一人でも多くの方々に楽しんでいただくことによって、秘密保護法の廃止を求める市民に想像力の翼が与えられることでしょう。呑み代やランチ代を減らしてでもチケットを買う価値があることを保証します！

●キャスト●

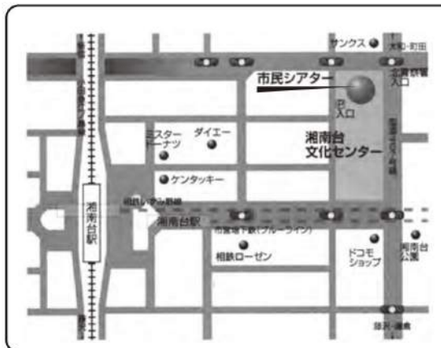
原　陽三（プロダクション・タンク）
井上 倫宏（演劇集団 円）
別所ユージ（スカイタッチエンターテインメント）
森崎みずき（M&S カンパニー）
岩崎　慧
小出 宏臣
野口 大輔（株・ビサイド）
鈴木 千夏
斉藤 清美
大堂あや璃
米塚 杏子
阿久津高広
元明真由美
横井　恵
林　大輔
森 麻衣子
伊藤紫央里
片倉いろは
内田 貴之（株アズリードカンパニー）
岡野 三郎（京浜協同劇団）
砂川 紀子
KANAE
渡辺 千夏
大友 怜奈
井上 みな
磯部 円香
藤間　亮
山本 恭平
内田水無月
近藤 麻由
町田えり子

初演アンケートより

●全体を通して突き刺さるものがあり途中で涙なしでは見られませんでした。曲も耳に残るものばかりで、しばらくふとした瞬間に聞こえてきそうです。ところどころ笑いもあり最後はすこし前向きになれました。あっというまの時間でした。（23 歳女性）

●福島県出身の者です。上手く言葉にできませんが、とても胸が苦しくなりました。特定秘密保護法…。よくわかってない人が本当にたくさんいます。日本人として知る権利、義務だと思います。とてもわかりやすく、すごくいい話でした。お願いです。一人でも多くの人にこの舞台を届けてください。ありがとうございました。今後もがんばってください。

●とにかく感動しました。秘密保護法反対の運動や労働運動にかかわっています。力不足で法律制定を押し返せなかった悔しみや、これから知らず知らずに罪を着せられたり、裁判に かけられたりする可能性も考えました。それで最後には「少しの勇気」とみんなの力であきらめてはいけないという元気と希望をもらいました。ありがとう！またいい劇をつくってください。期待しています。（44 歳女性ジャーナリスト）



◉公共交通機関
小田急江ノ島線・相鉄いずみ野線・横浜市営地下鉄線（ブルーライン）湘南台駅 G 出口から徒歩 5 分
◉駐車場
いずれの駐車場もたいへん混み合います。なるべく公共交通機関をご利用ください。
＊湘南台文化センター地下駐車場：約 80 台　料金：30 分につき 100 円（ただし、2 時間までは無料）
＊湘南台駐車場：約 50 台　料金：30 分につき 100 円（ただし、2 時間までは無料）

彼らが触れた秘密とはいったい何か!?

20XX年、ついに秘密保護法違反の逮捕者が出た！メディアの取材合戦にもかかわらず、検察・警察は秘密保護法を盾に一切事件の内容を明らかにしない。裁判当日、姿を現した被告人はなんと普通の市民９人！

原発に勤務する青年とその幼馴染み、そして長者町町内会の面々だ。無罪を主張する弁護側と、組織的犯行を主張する検察とが真っ向から対立。彼らは一体どんな「秘密」に触れたのか？裁判官や証人も巻き込み、さまざまな立場の思いが交錯するなか、果たして裁判の行方は…。

お問い合わせ

「秘密法ミュージカルを神奈川に呼ぶ会」実行委員会
E-mail:h2kubo@jcom.home.ne.jp
各団体・集会などでの宣伝配布にご協力お願い致します。
連絡先 090-2669-4219（久保）

【WEB 予約できます】ミュージカル・ギルドｑ.「チケット予約」「チケットオンライン」サービス
http://www.confetti-web.com/detail.php?tid=29221&
予約後すぐに、お近くのセブンイレブンでチケットを受け取れます。
・代金はチケット受け取りの際にセブン - イレブンでお支払いいただきます。
・ご予約前に、観劇ポータルサイト「カンフェティ」への会員登録（下記・無料）が必要となります。
・セブン - イレブンへの発券手数料がかかります。

Confetti（カンフェティ）
http://confetti-web.com　0120-240-540（平日10-18時）
購入でもらえるカンフェティポイントは、次回公演や他公演でご利用頂けます。
1枚購入ごとに、途上国の子どもたちに「BCGワクチン1人分」が寄付されます。

「秘密法ミュージカルを神奈川に呼ぶ会」主催

2015. 8.21（FRI）～22（SAT）

THE SECRET GARDEN
ー嘘の中にある真実ー

作・演出　田中広喜
作曲　小澤時史
振付　山本真実
歌唱指導　金田まり子
舞台美術　Ｔａｍａｋｏ☆
音響　須藤　浩（サウンド・オフィス）
照明　高野勝征（スペース・トライアル）
舞台監督　土居三郎
制作　石村淳二
法律監修　久保木亮介（弁護士）
トータルアドバイザー　海渡雄一（弁護士）

8.21（金）　14:00　19:00
8.22（土）
※開場はいずれも30分前

全自由席
一般 3,800円
大学生以下 2,000円
（当日は 500 円増）

藤沢市
湘南台文化センター
市民シアター
〒252-0804 藤沢市湘南台１－８
0466-45-1550
（地図裏面）

主催　「秘密法ミュージカルを神奈川に呼ぶ会」☎090-2669-4219（久保）
チケットは藤沢演劇鑑賞会（0466－24－1747）と市民シアターでも取り扱っています
市民シアター販売時間９～１７時　月曜、祝日の翌日は休館

Musical Guild q
音・楽・劇・技・能・団
TEL・FAX 03-5392-0167
〒174-0061 東京都板橋区大原町 13-12-104（事務局 田中）
http//musical-guild-q.com/

THE SECRET GARDEN

―嘘の中にある真実―

このミュージカルを応援しています！ 賛同人メッセージ！(50 音順)

●青井未帆（学習院大学教授／憲法）

いま、私たちには、市民社会としての強さが問われている。憲法の条項で謳われているから、私たちに表現の自由があるのではない。あらためてそのことに思いを致したい。

自由な情報の流れがあるからこそ、その情報に触れることで自らの心を育て、またきちんとした統治がなされることを確保できる。表現の自由を行使しうるのが当たり前という、まっとうで豊かな市民感覚を維持してゆくのは、私たち一人ひとりの努力にかかっている。

●雨宮処凛（作家）

特定秘密保護法は反対です！

●岡田尚（弁護士・九条かながわの会事務局代表）

私の担当した護衛艦「たちかぜ」事件で、自衛隊の証拠隠しに対して、裁判所に文書提出命令の申立てをした。

これに対し国は意見書で「これは防衛秘密なので提出できない」と拒み続けていた。しかし、後に内部告発によってその内容が明らかになったが、そのどこにも「防衛秘密」に該当するような情報はなかった。

告発がなければ永久に闇の中だった。

秘密保護法のもとでは、重罰による自己規制で告発もなくなり、結局「秘密」はそのままブラックボックスのままで終わってしまう。

●奥平康弘（憲法研究者）

国家情報のあれやこれやを、広く一般に秘密にしてしまう悪法は、戦後日本では長い間制定されずに済んだ。民主主義・言論の自由の発展、なかんずく憲法九条のはたらきがあったからである。しかし90年代に入ってから、情勢の変化が生じ、憲法改変への妄動が一段とはげしくなり、「戦争をする国」にしようと目指すようになった。昨年制定された特定秘密保護法はトップ・バッターのひとつである。私たちはこれに能うかぎり抵抗しなければならない。

ミュージカル「THE SECRET GARDEN」は、この法律の違憲無効をもとめる裁判を題材としたミュージカルである。ぼくは台本を読んだだけであるが、しっかりした出来栄えの作品だと思う。これに感動させられる音楽と歌とせりふがつけば、みごとな抵抗ミュージカルになるにちがいない。

●落合恵子（作家）

なんという時代になってしまったのか。させてしまったのか。これが平和憲法を誇る、民主主義の国の現実なのか。嘆きや失望に全身を明け渡すことはたやすいが、「諦めない、挫けない、後ずさりしない」と自分と約束して、特定秘密保護法や原発、集団的自衛権、基地といった生きる権利を脅かす諸々と真っ直ぐに対峙する。誰のために？　まずは自身のために。そして、わたしたちに続くすべてのそれぞれの、いのちと人権と自由のために。

聞く、観る、触る、嗅ぐ、味わう、そして共有する、わたしたちのミュージカル。

●岸井成格（ジャーナリスト）

安倍内閣は特定秘密保護法を強引に成立させたあとも、武器輸出の促進および武器の共同開発、そしてついに集団的自衛権行使容認を閣議決定するという越えてはならない一線を越えました。

これらは戦時体制を想定し、特定秘密の大義名分をつくり、憲法９条の平和主義をなし崩し的に破壊するものです。

特定秘密保護法は「天下の悪法」です。必ず廃止に追い込まなければ成りません。このままでは日本のメディア・ジャーナリズムは歴史に顔向けができません。ミュージカルの成功を祈っています。

●北村肇（『週刊金曜日』発行人）

米国の盗聴の実態を暴露したスノーデン氏の告発は、世界の権力者を震撼させました。あらゆる情報を独占することであらゆる市民を“奴隷化”するもくろみは、たった一人の“正義の使者”によってとりあえず挫折しました。これこそまさに、21 世紀情報化社会における究極の「非対称な戦争」。つまり「個人」と「国家」の戦争です。そして、いうまでもなく私たち市民の“武器”は真実です。だからこそ、安倍政権は真実の隠蔽に躍起なのです。

●田島泰彦（上智大学教授／憲法・メディア法）

「特定秘密保護法」が実施されたら、私たちの社会はどうなるのか。このミュージカルは、原子力発電所に関わる題材をもとに、同法違反事件の裁判を通して、その断面を照らし出そうとする試みです。

起訴された市民はなぜ「特定秘密」に迫ろうとしたのか、裁判で秘密は明らかにされるのか、秘密の正体は何なのか、裁判の結果はどうなるのか、当事者や関係者のさまざまな思いや葛藤も交えつつ、その実相がスリリングに展開していきます。特定秘密保護法とは何ものなのか、私たちの想像力を掻き立て、豊かにしてくれるこの舞台に多くの人たちが訪れることを期待します。

●鳥越俊太郎（ジャーナリスト）

これは法廷劇にしたことで特定秘密保護法が執行された時の問題点が実に分かり易く明瞭となっている。舞台は原発を見学した一般市民や雑誌ジャーナリストたちが、ある日突然、特定秘密保護法違反容疑で逮捕されるところから始まる。起訴し全員の有罪を求める検察側、単なる発電所見学だとして無罪を求める対立のドラマだ。ところが肝心の「秘密とは何か」が検察・弁護・裁判官も分からないまま進行する。実に滑稽だ。この法律の持つ奇妙さがズバリ呈示される。ドラマは最終局面で「秘密」をめぐって意外な展開を見せる。それは日本の将来に「あり得るかもしれない」恐怖の暗示だ。

撮影・木瀬公二

●むのたけじ（ジャーナリスト）

私は日本の15 年戦争（第2 次世界大戦）を社会人として経験した。それによれば戦争する国家権力はあらゆる美辞麗句を並べて敵国民と自国民にうそを言い続ける。そして国民は命令と服従の軍隊のモラルに引きつり込まれて、自己規制する。そして国策に沿わないことをいえば、非国民と呼ばれることを恐れて、見ざる言わざる聞かざるになってしまう。安倍内閣はいまどんな事情があるのか、「積極的平和主義」という美辞を振りかざして、「特定秘密保護法」を作り、なぜ軍国主義の過去に戻ろうとするのか。その道は絶対に許すことが出来ない。戦争によって殺されるよりも戦争を殺して平和な喜びの世を作ることこそ万人の仕事ではないか。

●村井敏邦（一橋大学名誉教授／刑事法）

ミュージカルとして楽しみながら、段々とうそ寒くなる。この法律の下ではこうなるのか。特定秘密保護法の悪法性をこのような形で訴えることができるのだ。最後の、最後に真実が…。舞台ではどのように表現されるのだろうか。ドキドキして結末を待つ。このミュージカルをできるだけ多くの人が見て、この法律の廃止に向けて多くの声が結集することを期待したい、いや、間違いなく期待できる。

●山田健太

（日本ペンクラブ言論表現委員長、専修大学教授／言論法）

いまの世の中、唇寒しの一歩手前。もう少しで引き返せない瀬戸際まできています。恐れない人をきちんと恐れさせ、市井の恐れる人に勇気を与えるには、僕たち自身が元気になることが必要でしょう。その元気の素に、歌や踊りはピッタリ。しかも作・演出は、重たい社会テーマを軽妙に仕上げるのが得意な、気鋭の脚本家 田中広喜さん。東京都内の初演では大いに盛り上がりました。怒ってばかりいても世の中変わりません。笑いと涙で厚い雲を吹き飛ばし、開かれた政府を実現するための第一歩にしましょう。

●澤地久枝（ノンフィクション作家）

●浜矩子（エコノミスト）

●高原孝生（明治学院大学国際学部教授）

●ビッグ錠（漫画家・湘南台在住）

●久保木亮介（法律監修／弁護士）

「国民の安全」のための「特定秘密保護」。「平和的生存」のための「集団的自衛権」。

原発の安全神話が崩壊した 3.11 後の日本で、いままた新たな神話が振りまかれています。為政者によるコトバのサーカスで、人権や平和にかかわる大事なルールがどんどん変えられてゆく…。その先に待つものの、恐ろしさとバカバカしさ。是非とも暴かなければなりません。このミュージカルに期待してください。

【後援】出版労連・新聞労連・日本ジャーナリスト会議（JCJ）・日本出版者協議会（出版協）・久保 新一（福島原発かながわ訴訟を支援する会共同代表、関東学院大学経済学部名誉教授）・太田 啓子（明日の自由を守る若手弁護士の会、弁護士）

●大谷 充（出版労連中央執行委員長）

何が秘密か、それも秘密。戦争は平和である。こんな滑稽なことが、小説の中だけではなく現実世界でまかりとおろうとしている。そんなのおかしいと思った市民が、スパイ活動やテロ防止を名目に監視されかねない、それが秘密保護法の一面である。私たちは決して萎縮はしない。表現の自由を生かして訴えかけよう。想像力とユーモア、そして勇気。これが私たちの武器だ。

●新崎盛吾（新聞労連中央執行委員長、共同通信記者）

戦後、日本で初めて取材を取り締まる法律が施行された。防衛や外交などの分野で権力と対峙する記者にとって、死活問題になりかねない。取材先が萎縮し、付き合いが悪くなったとの報告も寄せられた。権力側に都合が悪い報道を押さえ込もうとする意図が伺える。国民の知る権利が、水面下で確実に侵害されつつあることに、ぜひ気づいてほしい。

●伊東良平（ＪＣＪ神奈川支部代表）

「戦争の最初の犠牲者は真実」―侵略を自衛、撤退を転進…不都合な真実を覆い隠した大本営とメディア。いま、安倍晋三政権が「戦争立法」を「平和安全保障法制」とごまかす手法も全く同じです。神奈川県には、戦前戦後を通じて帝国陸海軍、米軍と自衛隊が拠点を構え、「秘密」と「隠蔽」により「真実」を覆い隠し、多くの県民が疑問と不安を抱いています。今回のミュージカル上演で、多くの県民が〈秘密法の真実〉に触れ、平和の大切さを共有できればと願っています。

●青山賢治

（日本出版者協議会　出版の自由委員会委員長・理事）

出版協の会員社には、社会不正をあばく本を出す出版社が多くある。出版社の志としてやっている人が多くいる。苦労して出した本が、読者に届く前に秘密保護法に触れて、発禁になったらたまらない。出版社は生きてゆけない。行政の長が勝手に指定した秘密が、30年も60 年も続くなんて、とんでもない。私たちの表現出版の自由を守るためにも、知る権利を獲得するためにも、秘密保護法は廃案にしなければならない。暗黒社会を作ってはいけない。

●久保新一（福島原発かながわ訴訟を支援する会共同代表、関東学院大学経済学部名誉教授）

福島原発訴訟の支援をしていて、この国が生活権、人権をいかにないがしろにしているかがわかった。将来を担う子どものいる家庭を、放射能の高い地域から避難させ、子どもの命と健康を守るのが国のすべきことなのに、「事故は収束したから帰れ」と言い、住宅手当の打ち切り（2016 年 3 月末）を決める。被災自治体に安全宣言を出させ、悪いのは帰還しない避難者だと言わんばかりである。

「特定秘密保護法」体制を許してはならない。

●太田啓子

（明日の自由を守る若手弁護士の会、弁護士）

船が沈みそうなとき、危険水域にいきそうなときに鳴る警報が聞こえなかったら、救命ボートをいつ出せばいいのか分からず、舵取りの方向を変えなければいけないのかも考えられないですよね。危険を知らせる警報を鳴らすと処罰する、それによって多くの人が警報を聞けなくなる、そういう法律が施行されています。関心を持ちましょう。まず知りましょう。そして自分が乗っている船のオールは自分で握りませんか？

特定秘密保護法って？

原発のこと、自衛隊のこと、税金の使われ方のことなど、当初非公表にされていて、マスコミ報道後に政府が認める重大な事例がたくさんあります。しかし、この法律が施行された今、政府が必要と判断すれば、それは「特定秘密」として隠されます。それを制限する権限は国会にすら与えられていません。時の政府の暴走を許してしまう恐ろしい法律です。そして、何が秘密か伏せられたままなので、特定秘密と知らずに「何か」を知ろうとすれば、一般市民でも逮捕されてしまう危険のある法律です。ミュージカルを見て、この法律のことを考えてみませんか？

〈2013年12 月6 日に成立、2014 年12 月10 日施行〉